

## 児童に論理的思考力を育む学習指導の工夫 ～物語文教材を論理的に読むための言語活動の充実を通して～

与那原町立与那原小学校教諭 金城由利佳

### I テーマ設定の理由

グローバル化の進展や人工知能(AI)の飛躍的な進化などにより、社会構造や雇用環境が急速に変化し、予測が困難な時代を今後迎える。このような時代を児童がより良く生きるためには、日常生活で起こる多種多様な状況に対応し、自分なりに根拠をもって思考し説明したり行動したりしながら課題に立ち向かうことができるよう、論理的思考力を育成することが重要である。そのため、平成29年告示小学校学習指導要領解説総則編では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点が盛り込まれており、学習の質を一層高めるよう求めている。このような状況の下、平成29年告示小学校学習指導要領解説国語編（以下「解説国語編」と表す）においては、伝え合う力を高めることや思考力や想像力を養うことを目標に掲げており、「言葉を通して正確に理解したり表現したりする力、論理的に思考する力や想像する力を育むことは、未知の状況にも対応できる力になる」と述べている。

これまでの実践をふり返ると、児童の思考力を育むために、教材文やそこで表現されている言葉にこだわりながらその場面の情景や人物の気持ちを具体的に想像させたり、思考したことや想像したことを交流する授業実践を行ってきた。しかし、児童は自分の考えを述べることはできたが、その根拠や理由を叙述と関係づけながら述べることができなかった。その要因として、文章同士や言葉同士、文章と言葉など、場面同士を関係づけたり比べたりしながら論理的に読む学習が十分ではなかったと考えられる。

そこで本研究では、物語文教材において、言語活動を工夫しながら、児童に論理的思考力を育む授業を実践する。そのために次のことに取り組みたい。物語文教材において「物語の伏線」を読み取るために叙述を根拠に読み深める指導を行い、論理的思考力を育めるよう工夫していきたい。また、思考したことを整理するために書く活動と書いてまとめたことを根拠をもって伝える交流活動を取り入れ、一人一人の読み方や考え方の違いに気づかせ、論理的思考力を育みたい。

以上のことから、物語文教材を論理的に読むための言語活動を充実させることで児童が叙述を根拠に想像したり関係づけたりしながら物語文を読むようになり、児童に論理的思考力を育むことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

### II 研究仮説と検証計画

#### 1 研究仮説

国語科の物語文の学習において、論理的に読むための言語活動の工夫をすることで、児童が叙述を根拠として論理的に思考するようになるのではないかと考え、仮説を下記のように設定した。

- (1) 読む学習において理由や根拠を明確にする問い返しをすることで、児童は理由や根拠を叙述と関連づけて考えることができるようになり、論理的に思考しながら読めるようになるであろう。
- (2) 叙述に基づいて論理的に思考したことをノートに書く活動を設定するとともに、まとめたことを伝える交流活動を仕組んだり、児童の思考を視覚化したりすることで、児童は互いの読み方や考え方の違いに気づくことができ、論理的思考力を育むことができるであろう。

#### 2 検証計画

事前調査やテストの結果等から、児童の実態調査・分析・把握を行う。検証授業は3年4組で10時間実施する。検証授業では、児童の発言やつぶやき、ノートやワークシートの記述、ふり返り等により、児童に論理的思考力を育むことができたかどうかを考察する。単元終了後にアンケートを実施し、

事前調査との比較・分析を行い、本研究の有効性を検証していく。

検証授業の対象：与那原小学校 3年4組 [男子19名 女子15名 計34名]		主な検証方法													
1 事前調査	○既習テストの結果を分析（5月下旬） ○国語に関する事前アンケート（6月中旬）	・事前アンケートの分析 ・諸テストの分析													
2 検証授業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>検証の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・第1時（6/25） 2校時</td> <td rowspan="10">○教材文の叙述を基に思考させることで、論理的思考力を育むことができたか。 (理由や根拠を明確にする問い返し) ○交流することで互いの考えの違いに気付いたか。 ○思考を見える化することで、論理的思考力を育むことができたか。</td> </tr> <tr> <td>・第2時（6/26） 1校時</td> </tr> <tr> <td>・第3時（6/27） 2校時</td> </tr> <tr> <td>・第4時（6/28） 2校時</td> </tr> <tr> <td>・第5時（6/29） 2校時</td> </tr> <tr> <td>・第6時（7/3） 2校時</td> </tr> <tr> <td>・第7時（7/4） 2校時・本時</td> </tr> <tr> <td>・第8時（7/5） 2校時</td> </tr> <tr> <td>・第9時（7/6） 1校時</td> </tr> <tr> <td>・第10時（7/9） 2校時</td> </tr> </tbody> </table>	日程	検証の観点	・第1時（6/25） 2校時	○教材文の叙述を基に思考させることで、論理的思考力を育むことができたか。 (理由や根拠を明確にする問い返し) ○交流することで互いの考えの違いに気付いたか。 ○思考を見える化することで、論理的思考力を育むことができたか。	・第2時（6/26） 1校時	・第3時（6/27） 2校時	・第4時（6/28） 2校時	・第5時（6/29） 2校時	・第6時（7/3） 2校時	・第7時（7/4） 2校時・本時	・第8時（7/5） 2校時	・第9時（7/6） 1校時	・第10時（7/9） 2校時	・各時間のめあてをもとにした自己評価 ・授業観察（発言、態度等） ・ワークシート ・ノート (思考したことの記述・ふり返し・感想) ・授業記録（写真、ビデオ等）
日程	検証の観点														
・第1時（6/25） 2校時	○教材文の叙述を基に思考させることで、論理的思考力を育むことができたか。 (理由や根拠を明確にする問い返し) ○交流することで互いの考えの違いに気付いたか。 ○思考を見える化することで、論理的思考力を育むことができたか。														
・第2時（6/26） 1校時															
・第3時（6/27） 2校時															
・第4時（6/28） 2校時															
・第5時（6/29） 2校時															
・第6時（7/3） 2校時															
・第7時（7/4） 2校時・本時															
・第8時（7/5） 2校時															
・第9時（7/6） 1校時															
・第10時（7/9） 2校時															
3 事後調査	○事後アンケート（7月） ○単元テスト・振り返りシート（7月）	・事後アンケートの分析 ・毎時の振り返りの分析 ・授業記録、児童の感想等の分析													
4 まとめ	○理由や根拠を明確にする問い返しや、書く活動と交流活動を仕組んだり児童の思考を視覚化したりすることは、児童に論理的思考力を育むことに有効であったか。	・事前・事後のアンケートの比較・分析・結果のまとめ・考察													

### Ⅲ 研究内容

#### 1 論理的思考力を育む学習指導の工夫

##### (1) 論理的思考力とは

解説国語編では、国語科の目標として(2)に「日常生活における人と人との関わりの中で、思いや考えを伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」が示された。それは、「思考力、判断力、表現力等」に関する目標を示したものであり、この場合の思考力や想像力とは、「言語を手がかりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力」のことを示している。つまり、叙述に書かれている出来事や場面の様子などを具体的に想像し、場面同士を関係づけながら読むことである。

読むことにおける論理的思考力について桂（2013）は、「物語文で例を挙げると『中心人物の変化』という読み方を指導する中で、教材の文章を根拠にして具体的に想像しながら説明したり（因果関係）、はじめとおわりの中心人物を比べたり（対比関係）する力等のことである」と述べている。このことから、物語文で論理的思考力を育む指導を行う際には、言葉同士や文章同士、言葉と文章などのつながりを関係づけながら筋道たてて物語の伏線を読むことや理解したことを活用する言語活動の充実が大切と考える。

##### (2) 論理的に読むとは

叙述を根拠に登場人物の気持ちや性格、場面の様子を想像することは論理的に読むことにつながると考える。

豊田（2010）は、「論理的に読む」というと説明文をイメージすることが多い。しかし、物語文でも作者は緻密な計画のもとで文章を構成し、効果的な伏線をして読み手を惹きつけようとしていることから、物語文においても論理的に読むことができると考える。また、読み手も『次はこうなるであろう』と予測し、読み手としての論理的な読みを駆使して文字を追っている。物語文では予測し得ないことが起こったり、突発的な事件が起こったりするが、それは最後に伏線と見事に結びついて終末を迎える。」と述べている。つまり、前で起こったできごとが原因になり、後で起こるできごとが結果になる。そのつながりを理解して読むことを論理的に読むことと捉える。

解説国語編の第3学年及び第4学年「C読むこと」の指導事項の中に「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像すること。」とある。登場人物の気持ちは行動や会話、地の文などの叙述をもとに捉えていくことが求められている。また、登

場人物の性格は、その人物を取り巻く環境や人間関係の状況を把握し、行動や会話に関わる複数の叙述を結びつけて読むことが重要とある。このことから、登場人物について読むためには、その背景に隠れている部分をいくつかの叙述から想像することが大切である。

## 2 論理的に読むための言語活動の工夫

### (1) 論理的に読むための流れ

本研究では以下の流れで言語活動を行い、論理的に読ませる。

表 1 論理的に読むための流れ

①設定を正しく読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者がえがこうとしている世界に入るために読む。</li> <li>・読み取った背景をそろえることが交流につながる。</li> </ul> ※何となく読むのではなく、根拠となる叙述を文章中からしっかりと探し、その場面設定を想像すること。
②人物の人がらを読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接的に表現されていることは少ないので、言動や行動、出来事などの叙述を根拠に人がらを想像する。</li> </ul> ※人がらを読むには、叙述に書かれた場面や人物の気持ちなどを想像すると共にそれらに関係づけながら読むこと。
③物語の伏線を読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の伏線を読むには、中心場面で起こった出来事と関係づけながら読むこと。</li> </ul>
④友だちと自分の考えとを比べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を通して読み方や考え方の違いに気づき、思考力や表現力をより広げること。</li> </ul>

### (2) 論理的に読むための発問

加藤(2018)は、「授業で教師が良い発問をすれば、子どもたちの問いに対する切実感や必要感が高くなり、子どもたちの学びへの意欲は高まる。」と述べている。また、「良い発問とは『考えたい』『話し合いたい』というように子どもたちを能動的にする発問のことである。」とも述べている。つまり、子どもたちの知的好奇心をゆさぶるような発問を考えることが重要だと考える。また、発問に対する答えが一つではなく、多様な考えが出るような発問を考えることも重要だと考える。発問に対する考えが違うから自分の考えが正しいのかどうか気がになり、その根拠や理由を知りたくなる。根拠や理由を述べるためには、叙述をもとに場面や登場人物について想像をふくらませて論理的に読むことが必要になる。

そこで、本研究では論理的に読むための発問として、思考活動を活発にし、思考を広げ深めるために、子どもたちに考えの理由や根拠を問い返す発問をする。「なぜそう考えたのですか」と理由を明確にするよう発問したり、「どこから・どの場面からそう考えたのですか」「それってどういうこと」などと根拠を明確にするよう発問したりする。登場人物の性格を叙述から想像して読み取る場面で、叙述には直接どんな人なのか書かれていないことから、「なぜ、やさしい人だと思ったのですか」と問い返すことで、理由を明確にするよう働きかける。また、物語のしかけを読み取る場面で、「なぜ、それがしかけだと思ったのですか」と問い返すことで、自分の考えに理由づけをさせ、思考が深まるように働きかける。その問い返しの中で、自己の考えと比べながら聞き、共通点や相違点に気づくことで思考を広げていくようにしたい。さらに、対話を通しての問い返しだけでなく、個で思考したことをペアや全体で交流し、自分と違う読み方や考え方にふれさせる場を設定し、深く読ませたい。

### (3) 関係を読み取らせる工夫

小貫(2014)は、授業をユニバーサルデザイン化するための方策として『聞くだけの時間』を減らすキーワードとして『焦点化』『視覚化』『共有化』を挙げている。それは、論理的に思考したことがどんな特性をもっている児童にもわかるように、聞くだけの時間を減らし、授業の山場を焦点化し、そこにたどり着くまでに思考したことを視覚化したりする中で、共有化を図る方策である。(図1)

焦点化とは、「1時間の授業で何を教えるか、その焦点を絞ること。」視覚化とは、「子どもから出た意見を板書し、考えることを支援するための工夫。」共有化とは、「子どもがペアやグループで考えを伝えあったり、教えあったりする。」と述べている。

本研究では、毎時の授業の山場を明確にして焦点をしぼり、児童と教師や児童同士の対話などから思考した内容を板書し視覚化していく。さらに、それらをもとに共有しながら互いの思考を広げる授業実践をしたい。

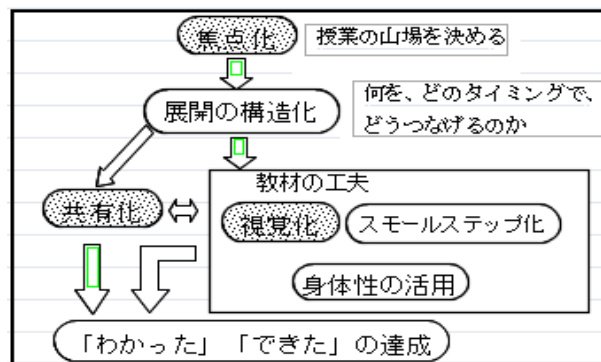


図1 「わかった」「できた」を達成するために

## IV 検証授業

- 1 単元名 「ゆうすげ村の小さな旅館シリーズをポップでしようかいしよう」
- 2 教材名 「ゆうすげ村の小さな旅館」(東京書籍3年)
- 3 単元設定の理由

### (1) 教材観

本教材は、「ゆうすげ村の小さな旅館」に収められている12編の中の1編である「ウサギのダイコン」という物語である。小さな旅館で起こる不思議な出来事を題材にして、ゆうすげ村の12ヶ月が作品の中で描かれている。

主人公つぼみさんが経営するゆうすげ旅館を舞台に、様々なお客さんとの交流を通して不思議な出来事が起こるファンタジー作品となっている。本教材は時間の経過に沿って物語が展開しており、時を表す言葉に着目することで、場面をとらえることができる。また、人物の行動や会話に気持ちが表れており人物の気持ちや人がらを想像することが容易である。さらに、ファンタジー作品の特徴である伏線が随所にちりばめられており、叙述をもとに「物語の伏線」を探し、豊かに想像しながら論理的に読む楽しさを味わえる教材になっている。

### (2) 児童観

児童は前学年までに、物語の場面は時間の経過、場所の移動、新しい人物の登場によって変わることが多いことを学習してきた。しかし、物語を論理的に読むことについてはまだ経験が少ない。

児童アンケートでは、これまで、場面・出来事・登場人物の気持ちを想像しながら読んだ経験があり、約79%の児童がしっかり想像しながら読んだと答えている。それに対して、理由をつけて話したり書いたりすることに関しては約67%となっており、自分の考えは言えるものの、その根拠を叙述をもとに伝えられる児童は少ない。

### (3) 指導観

本単元の第一次では、事前指導で読み聞かせをしたファンタジー作品「あらしのよるに」を教師作成のモデルカード(ポップ)を提示しながらふり返り、ファンタジー作品のおもしろさを共有する。

第二次では、アニメシオンの活動を取り入れ、物語の中で起こった出来事を時間の経過と共に叙述からとらえさせる。また、その出来事と登場人物の人がらも叙述をもとに関連づけながら想像させ、その理由や根拠を明確にする問い返しをすることで、論理的に思考させる。さらに、児童が思考したことを視覚化することで論理的に思考する手立てとする。その指導過程で、全体を大まかにとらえたり細部を読んだりしながら叙述をもとに豊かに想像させ、ファンタジー作品のおもしろさ「伏線」を見つけ、互いの考えを叙述を根拠に交流させ、教材文を深く読ませる。

第三次では、第二次で学んだ読み方で、「ゆうすげ村の小さな旅館」シリーズ12編のうち、教材

文以外の2編を教師が選定し、その中の1編を選んで伏線を探しながら読ませる。その際、登場人物の人がらとそこで起こった出来事を関係づけながら中心場面に至った経緯を読み、物語の伏線を見つけさせ、論理的に読んだことを表現する方法としてポップカードを取り入れる。それを共有する場面では、同じ物語を読んだ児童同士をペアにして交流させる。同じ物語を読んでも、登場人物の人がらのとらえ方や見つけた「伏線」が違うことで、一人ひとりの読み方や考え方の違いに気づかせ、学習のまとめとする。

#### 4 単元の指導目標

##### (1) 単元の目標

- ファンタジー作品に描かれている世界に浸りながら作品を読み、そのおもしろさを伝えようという目的・相手意識をもって読んでいる。 【国語への関心・意欲・態度】
- それぞれの場面で起きた出来事を読み取り、場面と場面とを関連づけて読む。 【読むことエ】
- 物語の伏線を見つけるために、文章中の語や表現に着目して読む。 【読むことイ】
- 表現したり、理解するために必要な語句を増やす。 【伝国イ(オ)】

##### (2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・ファンタジー作品を読むことに興味をもち、読んだ本のおもしろさをポップで友だちと交流するという目的・相手意識をもって、読んでいる。	・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に想像して読むことができる。(イ) ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。(エ)	・事柄や人物などの様子や特徴を表す語句、人物などの行動や気持ち、性格を表す語句などを話や文章の中で使用することができる。

##### (3) 単元の指導・評価計画(全10時間)

次時	学習活動	□評価規準(評価方法検証の視点・方法)
一 次	1 ●教材文「ゆうすげ村の小さな旅館」(ウサギのダイコン)に出会う。 ①事前学習で読み聞かせした「あらしのよるに」を教師作成のモデルカード(ポップ)を提示しながらふり返り、ファンタジー作品のおもしろさを共有する。 ②とびらの挿し絵と題名から物語の内容を想像し、それぞれの考えを共有する。 ③教師の範読を聞き、この物語のおもしろい部分や不思議に思った部分について、理由もつけ加えて感想に書く。	<input checked="" type="checkbox"/> 関 ファンタジー作品を読むことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 読 理由を述べながら初発の感想を書くことができる。
	2 ●学習課題をもつことができる。 ①初発の感想を交流する。 ②感想を仲間わけする。(場面) ③どんな学習が必要か話し合う。	<input checked="" type="checkbox"/> 関 学習課題を知り、どんな学習が必要か前学年の学習をふり返りながら見通すことができる。
二 次	3 ●物語の場面を整理することができる。 ①時を表す言葉を見つけながら読み、7つの場面に分ける。 ②物語の場面わけの原理・原則(はじめ・なか・おわり)を理解し、それをもとに、物語を三部構成に分ける。 ③時・場所・登場人物・出来事などの場面をノートに整理する。	<input checked="" type="checkbox"/> 読 物語の大体の内容を読み取ることができる。
	4 ●対人物(美月さん)の人物像について会話や行動など叙述をもとに考えることができる。 ①対人物の会話や行動の中に、人がらが想像できる文章を見つけながら読み、青線を引く。 ②会話や行動などのいくつかの叙述を根拠に、対人物の人がらについて自分なりに考えてノートに書き出す。	<input checked="" type="checkbox"/> 読 登場人物の人がらについて、叙述をもとに具体的に想像することができる。

	<p>③対人物（美月さん）の人物像について全体で交流することができる。</p> <p>5 ●中心人物（つぼみさん）の人物像について会話や行動など叙述をもとに考えることができる。</p> <p>①中心人物の会話や行動の中に、人々が想像できる文章を見つけながら読み、赤線を引く。</p> <p>②会話や行動などのいくつかの叙述を根拠に、中心人物の人がらについて自分なりに考えてノートに書き出す。</p> <p>③中心人物（つぼみさん）の人物像について全体で交流することができる。</p> <p style="text-align: center;">※並行読書開始</p>	<p>読 登場人物の人がらについて、叙述をもとに具体的に想像することができる。</p>
二 次	<p>6 ●伏線を探しながら読むことができる。</p> <p>①物語の中心場面で起こったできごとを確認し、教材文（そういうことだったの……。）の意味を考える。</p> <p>②伏線につながる文章や言葉に着目し、そこに鉛筆で線を引きながら読む。</p> <p>③各自が見つけた伏線をノートに整理する。</p>	<p>読 物語の伏線を見つけるために、文章中の語や表現に着目して読むことができる。</p> <p>読 登場人物や情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。</p>
	<p>7 ●各自が見つけた伏線を叙述を基に交流し、お互いの考えの違いから学びを深めることができる。</p> <p>①各自で見つけた伏線がいくつあったかそれぞれの思考のズレに気づく。</p> <p>②各自が見つけた伏線をペア・全員で交流しあい、より多くの伏線に気づくことができる。</p> <p>③見つけた伏線を関係づけながら、大きな伏線を見つける。</p>	<p>読 物語の伏線を交流することで、より高まった考えを持つことができる。</p> <p>読 物語の伏線を場面に合わせて並べ、物語の大きな伏線に気付くことができる。</p>
三 次	<p>8 ●伏線につながる文章や言葉に着目しながら自分が選んだ物語を読み、ポップカード作りの準備ができる。</p> <p>①ポップカードに書かれている内容を理解する。</p> <p>②自分の選んだシリーズ中の一編の登場人物の人がらや伏線を探しながら読み、線を引く。</p> <p>③論理的に読み取ったこと（物語の伏線・人がら）をノートにメモする。</p>	<p>読 物語の伏線を見つけるために、文章中の語や表現に着目して読むことができる。</p> <p>読 登場人物の人がらについて、叙述をもとに具体的に想像することができる。</p>
	<p>9 ●読み取ったことをもとに、ポップカードを作ることができる。</p> <p>①自分の見つけた人がらや伏線を確認しながら、再度読みかえす。</p> <p>②ポップカードで紹介したい内容を選ぶ。</p> <p>③ポップカードを作成する。</p>	<p>読 物語の伏線を見つけるために、文章中の語や表現に着目して読むことができる。</p> <p>読 登場人物の人がらについて、叙述をもとに具体的に想像することができる。</p>
	<p>10 ●作成したポップカードを用いて物語を紹介し合うことができる。</p> <p>①ポップカードの紹介の仕方を確認し、理解する。</p> <p>②紹介の練習をする。</p> <p>③ポップカードで紹介し、お互いの良さを見つけ、学びを深める。</p>	<p>読 物語の伏線を見つけるために、文章中の語や表現に着目して読むことができる。</p>

## 5 本時の指導（第7時/全10時間）





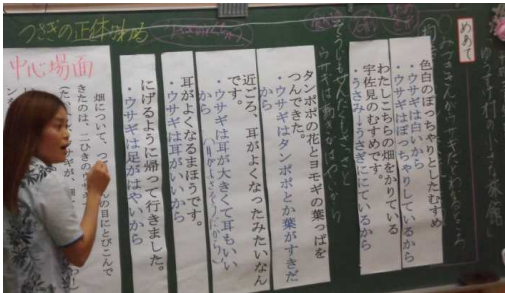
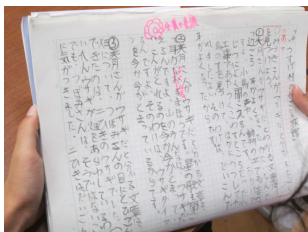
### (1) 本時のねらい

ゆうすげ村の小さな旅館の叙述をもとに伏線を探し、交流を通して互いが探した伏線の違いから自分の考えを広げることができる。

### (2) 授業仮説

- ①探した伏線をもとに理由を問う問い返しを行い交流することで、より高まった考えをもつことができるであろう。
- ②物語の伏線を視覚化することで、物語の大きな伏線に気付くことができるであろう。

(3) 本時の展開

	主な学習活動・発問	○教師の支援 ◎留意点 C 児童の反応	◇本時の評価□検証の視点
導入 5分	<p>1 前時のふり返り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨日の授業で物語のしかけ、いくつ見つけられたかな？</li> <li>3つより多い人。 } 挙手</li> <li>3つより少ない人。 }</li> <li>・あれ？みんな違うね！</li> <li>・前の授業のふり返りをお願いします。(2分)</li> </ul> <p>2 本時のめあての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は物語のしかけを交流しましょう。めあてをノートに書いてください。(3分)</li> </ul>	<p>○中心場面の叙述を事前に掲示しておく。</p> <p>C 友だちが見つけた「物語のしかけ」を知りたい。</p> <p>◎教師の意図的指名で全体の問いとして捉えさせ、めあてに導く。(2～3名)</p> 	 
<p>めあて 美月さがんがウサギだとわかるころ(物語のしかけ)を交流しよう。</p>			
展開 30分	<p>3 学習の進め方の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の仕方は右図を参照(2分)</li> </ul> <p>4 ペアで交流する。(3分)</p>  <p>5 全員で交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが見つけた物語のしかけを交流してみよう。(15分)</li> </ul> <p>6 大きなしかけを見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからみんなにもっと「大きなしかけ」を見つけてもらおうよ。すると、もっとファンタジーが面白くなるよ。</li> <li>・しかけを物語のお話しの順に並べてみよう。(5分)</li> <li>・中心場面に近づいていくと、物語のしかけはどう変わっている？(10分)</li> </ul>	<p>○掲示資料を使って説明する。</p> <p>〈発表する子〉 「わたし・ぼくが見つけた物語のしかけは、○○です。その理由は△△だからです。」</p> <p>〈聞く子〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 最後までしっかり聞く。</li> <li>2 しょうかいされた言葉や文を教科書から探す。</li> <li>3 教科書に友印を入れて線を引く。</li> </ol> <p>◎意図的指名でできるだけ多くのしかけが出るようにする。</p> <p>○事前に、児童が見つけた物語のしかけを短冊にしてすぐ提示できるようにした。</p>  <p>C だんだんうさぎに近づいている。 C だからつぼみさんもすぐに気づいたんだよ。</p>	<p>読 物語の伏線を交流することで、より高まった考えを持つことができる。[視点2]</p>  <p>読 物語の伏線を場面に合わせて並べることで、物語の大きな伏線に気付くことができる。[視点3]</p>
ま	7 本時の授業のまとめ(5分)		

と め 10 分	まとめ ファンタジー作品にはたくさんのしかけがある。しかけがあることで、物語がもっとおもしろくなる。	
	8 本時の振り返り (5分)	

(4) 本時の評価

物語の伏線を交流することで、より高まった考えを持つことができたか。【読む】  
 物語の大きな伏線に気付くことができたか。【読む】

V 研究の結果と考察

研究の考察は、事前・事後アンケート、ノートやワークシートの記述、授業観察をもとに行う。事後アンケートについては、これまでの学びをノートで振り返らせながら記述式のアンケートも行い、学びをどのように捉えたか分析した。

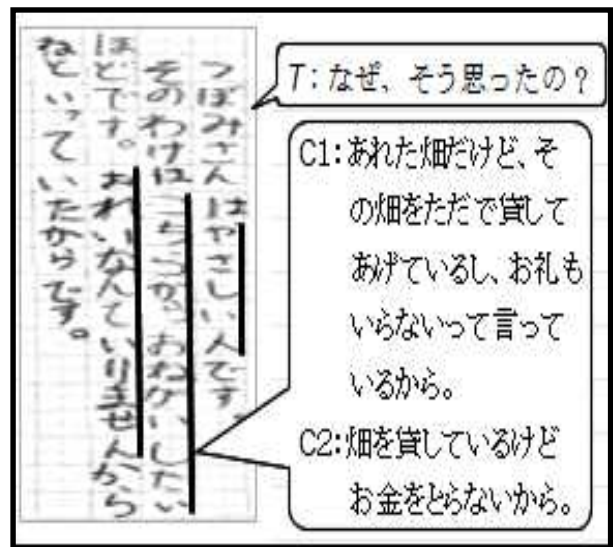
1 論理的に読むための言語活動の充実

(1) 発問と板書の工夫

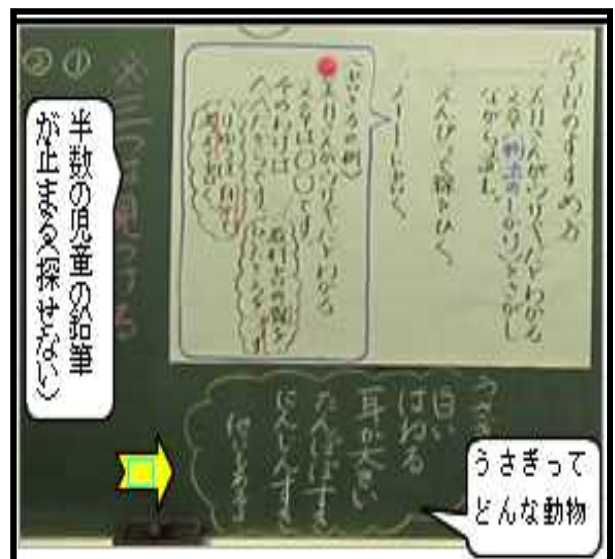
本研究では、児童に問いをもたせ、論理的に読ませるためには主発問と問い返しをあらかじめセットで計画することが重要だと考えた。そこで、児童に論理的に思考させながら読ませるため、第4時～第7時目に、叙述をもとに思考させる問い返しをする時間を設定した。

まず、第4・5時の中心人物の人がらを読みとらせ、主に「なぜ、そう思ったの?」「そのわけは?」「どの文章からそう考えたの?」などと発問し、根拠となる叙述と関係づけながら論理的に読ませた。その結果、資料1のように根拠となる叙述をもとに人がらを想像して理由を述べていた。その他には、「じゃあ、引きとめるわけにはいかないわねえ。」という会話文から温かい人や優しい人と読み取っていた。このことから、物語文を論理的に読めたと捉える。

また、資料2は第6時の中心場面で起こった出来事の伏線(物語のしかけ)を探す学習で、発問の工夫を行った際の板書である。中心場面で起こった出来事(山の畑にウサギがいて美月さんがウサギだとつぼみさんが気づいた場面)と関係づけながら叙述に向き合わせることで、論理的に読ませようと考えた。しかし、美月さんがウサギだとわかるヒントになる叙述を探せない児童が半数いた。そこで、ウサギだとわかる叙述と関係づける手立てとして、「ウサギってどんな動物?」と発問し、児童が想像したことを板書に残し、視覚化することで思考の手立てとした。その結果、33人中32人は物語の伏線を叙述から探すことができ、中心場面との因果関係を読み取れたことがわかる。資料3はその時の児童のノートの記述である。

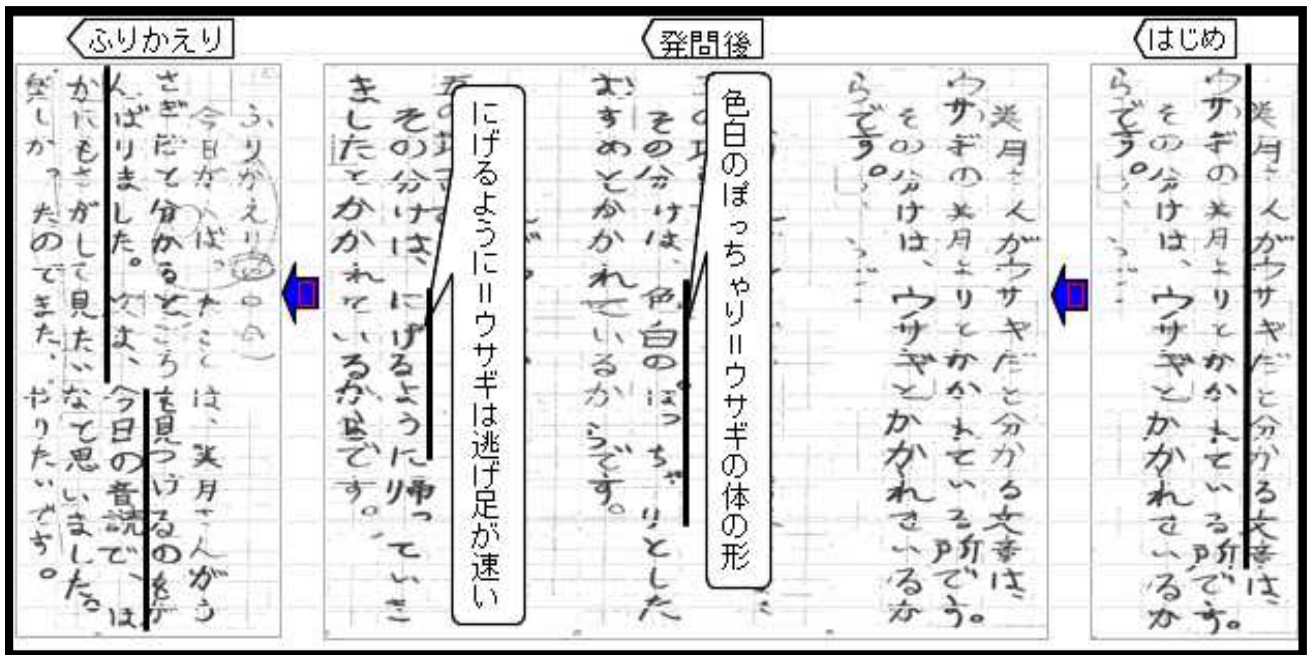


資料1 児童のノートと発問に対する反応



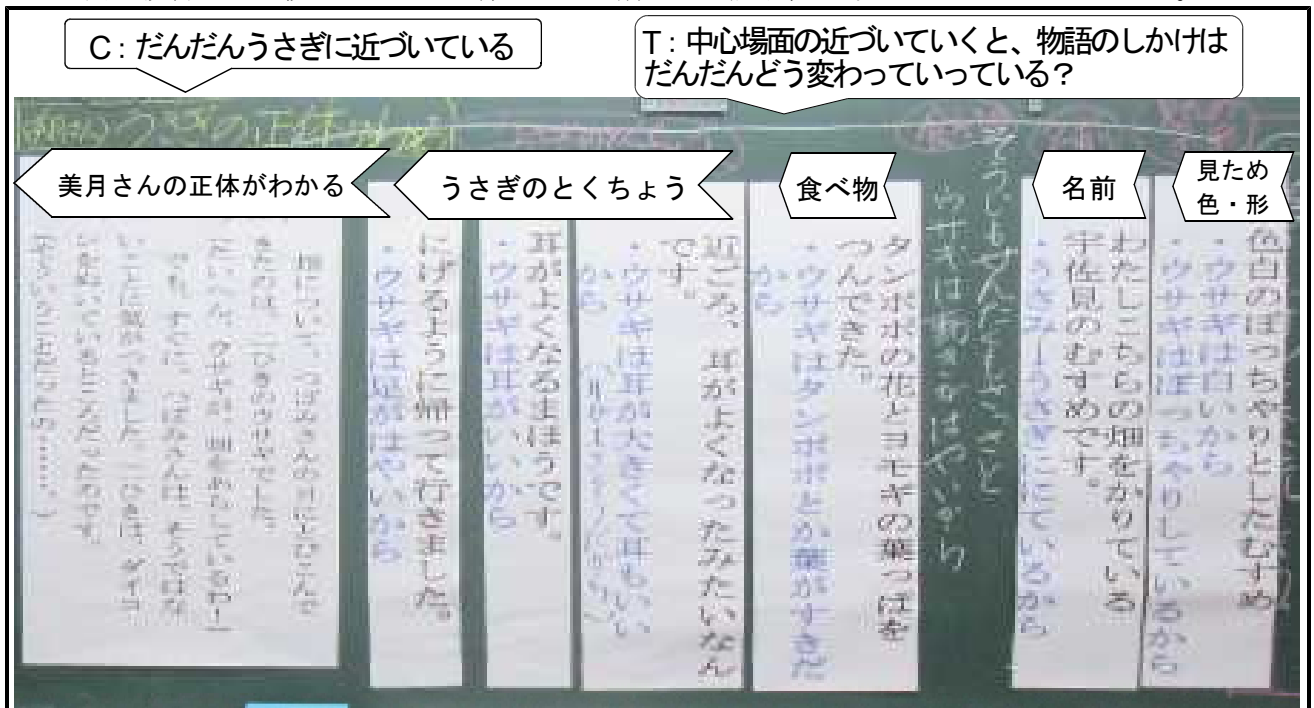
資料2 物語の伏線を探す学習での板書





資料3 発問による児童の思考の深まりの様子

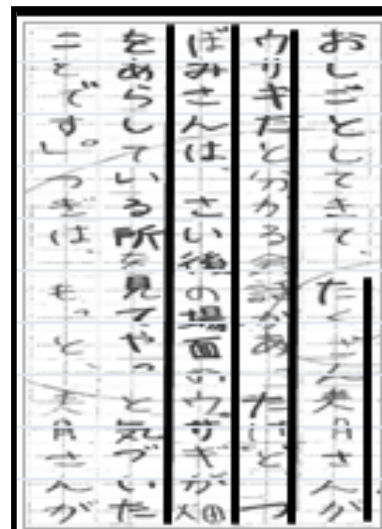
はじめはウサギと書かれている叙述しか探せなかったが、発問後はウサギと書かれていない叙述にもウサギだとわかる表現があることに気づいていることが読み取れる。このことから、教師の発問や板書により叙述をもとに想像しながら論理的に読み、思考が深まったことがわかる。



資料4 大きなしかけを読み取る板書

さらに、本検証の第7時では児童が見つけた物語のしかけを交流したあと、それらを「物語の順に並べると、大きなしかけが見つられるよ」と問い、大きなしかけとは何なのかをしかけ同士を関係づけながら論理的に読ませた。資料4はその時の板書である。しかけを物語順に並べたあと、「中心場面に近づいていくと、物語のしかけはだんだんどう変わっていったかな？」と問いかけた。すると、「始めはウサギの色や形→名前→食べ物→特徴になっている。」「物語が進んでいくと、だんだんウサギだって事がはっきりとわかるようになっていく。」と気づくことができ、物語

のしかけ同士をつなげながら読むことができたことから、論理的に思考したことがうかがえた。その後、資料5を紹介し、「物語を読んでいる人は途中で美月さんはウサギかもと気づき始めているのに、なぜ登場人物は最後の方でしか気づかないのか？作者はどうしてこんなふうにしかけを考えたんだろう？」と発問したところ、「登場人物が早く気づいてしまうと物語が面白くない。」「読んでいる人は気づき始めるけど、登場人物が気づいていないので、ワクワクする。」などの発言があり、作品のおもしろさや、作者の文章構成のしかけや意図に気づくことができた。さらに、事後アンケート（記述式）からも、中心場面や物語のしかけに関する発問の場面で、「しかけを見つけるために教科書を何度も読みかえた」と記述した児童が学級の約半数もいた。また、「どれがしかけなのかたくさん考えた」「見つけたしかけを発表したくなった」などの記述から、中心場面とつながりのある叙述を意識したり、叙述に書かれた場面を想像したりしながら読んだことがわかる。



資料5 前時のふりかえり

以上のことから、主発問と考えを深める問い返しを行うことや板書を工夫することは論理的に読ませることに有効だったと考える。

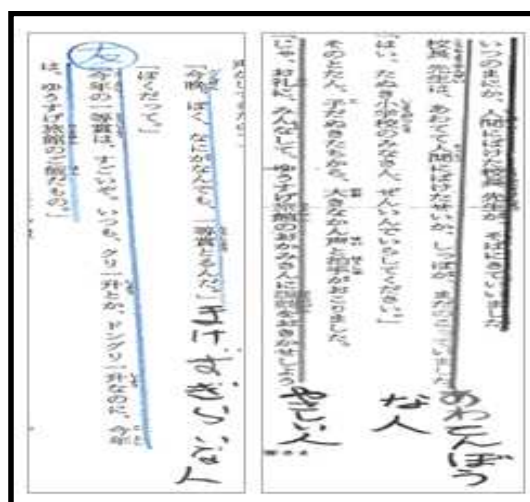
## 2 交流する活動は論理的に思考することに有効であったか

### (1) 論理的に読むための書く活動

叙述をもとに自分なりに読み取ったことを書くことは、論理的に思考したことを更に整理するために重要だと考える。本研究では、単元のゴールとして読み取ったことをポップカードにまとめることとした。12編のシリーズ作品の中から教師が2編を選び、そのうちの1編を児童に選択させた。そして、ポップカードに書く内容として、人物の人からや物語のしかけを書き込ませることで、論理的に読めたかどうか考察することにした。

資料6は、それぞれの児童が登場人物がどんな人なのか読み取っている様子である。会話文や行動に着目しながら想像してどんな人なのか読み取っていることから、論理的に思考していることがわかる。また、友だちとの交流で納得したことは友印で線を引いていることから、交流したことで、友だちの読み方や考えを自己の考えに取り入れ、思考を広げたことがわかる。

資料7は、自力で読んだことをポップカードに表現する前の児童の思考の様子である。物語のしかけを選んだ理由を場面の様子と関係づけながら思考していることや対人物の名前にしかけがあることに気づいている様子から、論理的に読んだことが読みとれる。中には、「先生や友だちと一緒に読みながら勉強したらできると思うけど、一人では難しい。」とつぶやく子が数名いたが、物語のしかけを見つけることとその理由を書くことに限定すると、スムーズに表現することができた。このことから、読み取ったことを書くことは、



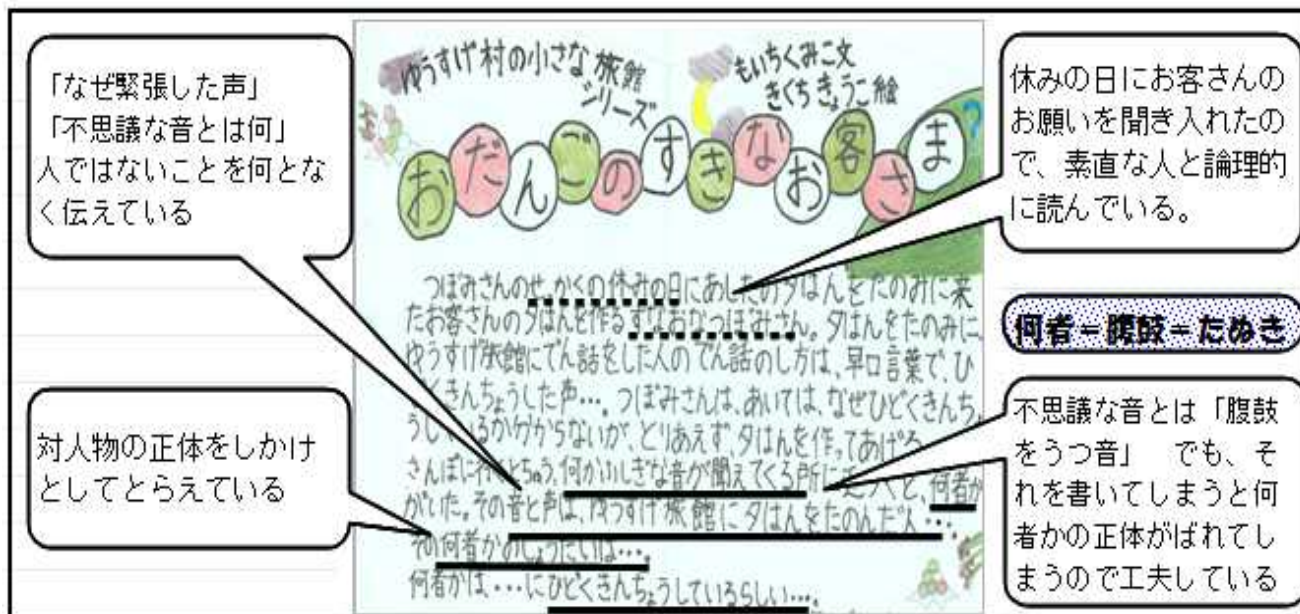
資料6 叙述をもとに想像したこと



資料7 論理的に読んだ足跡

自分の書いた内容と叙述を比べながら何度も読み返すなど、論理的に思考しながら読むことにつながったと考える。

資料8は実際に、児童が書いたポップカードである。思考錯誤して見つけた人がらや物語のしかけを叙述を根拠にして読み取り、中心場面と関係づけながら物語のしかけを書いていることから、論理的に思考しながら読んだことがわかる。



資料8 児童が書いたポップカード

表2 ポップカードの評価規準と結果

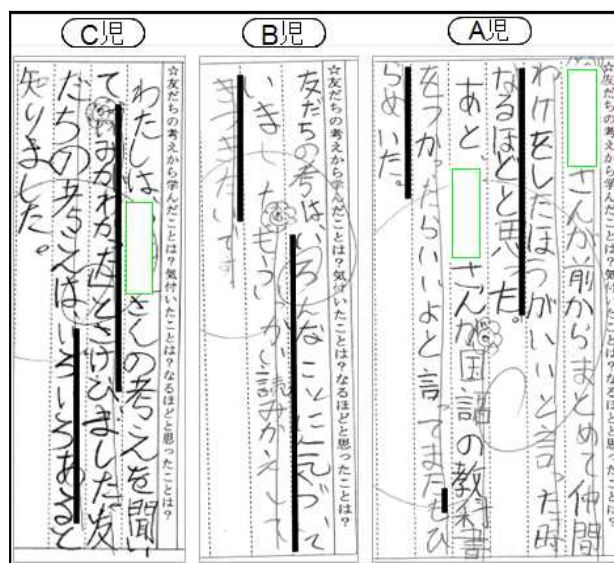
	ポップカードの評価規準	割合
A	人物の人がらと物語のしかけの両方が書けた。	50%
B	人物の人がらか物語のしかけのどちらかが書けた。	34%
C	人物の人がらや物語のしかけにふれず、とりあえずカードを完成させることができた。	3%
D	先生と一緒に完成させた。あるいは完成しなかった。	12%

表2は、ポップカードの評価規準と結果である。評価A・Bは叙述をもとに人がらを想像したり、場面同士を関係づけながらしかけを見つけ記述していることから、論理的に読んだと捉える。学級の84%の児童が評価A・Bであることから、児童に論理的的思考力を育むことができたと考える。

## (2) 論理的思考力を育むための交流活動

児童に論理的思考力や表現力を育むためには、一人学びで捉えたことを交流することで、友だちの考えから学びを広げたり、新たな気づきを通して再思考することができるので重要だと考える。

そこで、本研究では共通点や相違点などに着目して交流するよう、常に意識させた。その結果、資料9の授業後のふり返りを見ると、「友だちの考えから学び再度読み直したい」「友だちの考えのおかげで意味がわかった」などと記述していた。また、授業中、「一人で考えるよりも友だちと交流しながら考えた方が、いろいろな考えが出てわかることがたくさん増えるから交流したい。」という児童のつぶや



資料9 児童のふり返り

きがあった。これらのことから、交流したことで、論理的思考力を育むことができたと捉える。

事後アンケートで、交流したときに友だちと考えが違ふとどんな気持ちになるのか調査したところ、事前と事後では表3のように児童の気持ちの変容が見られた。

表3 アンケート「交流の場面で友だちと自分の考えが違ふと、どんな気持ちになりますか。」(複数回答)

事前アンケート		事後アンケート
<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうなんだと思う[5]</li> <li>・そういうかんがえもあったな[11]</li> <li>・すごい[4]</li> <li>・いろいろな考えがあるから勉強になる[1]</li> </ul>	<b>肯定的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そんな考えがあったんだ見習おう[8]</li> <li>・すごい[3]</li> <li>・よく気づいているな[2]</li> <li>・友だちの考えの理由を聞くとわかりやすい[1]</li> <li>・みんないろいろな考えがあるんだな[1]</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくもそう思った[1]</li> <li>・その考えいいね[1]</li> <li>・はづかしい[5]</li> <li>・間違えたかな[3]</li> <li>・この人、間違っていない?[1]</li> <li>・不安[1]</li> <li>・嫌だと思う[1]</li> </ul>	<b>否定的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるほど[6]</li> <li>・そういう方法もあったんだ[5]</li> <li>・教科書で確認しよう[2]</li> <li>・間違っているのかな[2]</li> <li>・意味がわからない[1]</li> </ul>

事後には肯定的な答え方をした児童が増え、否定的な答え方をした児童が減少した。また、アンケートの記述に、「こんなにいろいろな考えがあることに気づいた[14]、友だちから学べた[6]、友だちの考えやその理由を聞くと簡単にわかった[6]、友だちが先生みたいでわかりやすかった[2]」とあった。このことから、交流することで自分が気づけなかったことを友だちから学び、互いの考えを自分の思考に取り入れられるようになり、肯定的に答える児童が増えたと考える。

つまり、交流活動は、お互いの考えの共通点や相違点に気づき論理的に思考することに効果があると考える。また、互いの読み方や考え方の違いにも気づき、より高まった考えをもつ手立てになったと考える。

## VI 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- (1) 指導者が発問を工夫することで、児童が叙述を根拠に読み解こうと教材文に向き合い、物語文を論理的に読むことができた。
- (2) 叙述を根拠に想像させ、場面でおこった出来事と人物の気持ちや人がらなどを関係づけながら理由を述べられるようになったことから、論理的思考力を育むことができた。
- (3) 交流することで、互いの考えから学び合い、論理的思考を育むことができた。

### 2 今後の課題

- (1) 児童が解き明かしたくなるようなさらなる発問の工夫に努める。
- (2) さらに児童に読む力を身につけるために、論理的に読む学習指導の工夫改善に努める。
- (3) 思考力を育むための質の高い交流方法を工夫する。

### 〈主な参考文献〉

文部科学省	『小学校学習指導要領解説編 国語編』	日本文教出版	2018年
	『教育科学 国語教育5月号・821号』	明治図書出版	2018年
小貫悟 桂聖著	『授業のユニバーサルデザイン入門』	東洋館出版	2014年
全国国語授業研究会・筑波大学附属小学校国語研究部 編著	『論理的思考力を育てる国語授業』	東洋館出版	2013年
国立教育政策研究所	『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』	教育出版	2011年
全国国語授業研究会	『子どもと創る「国語の授業」NO30』	東洋館出版	2010年

